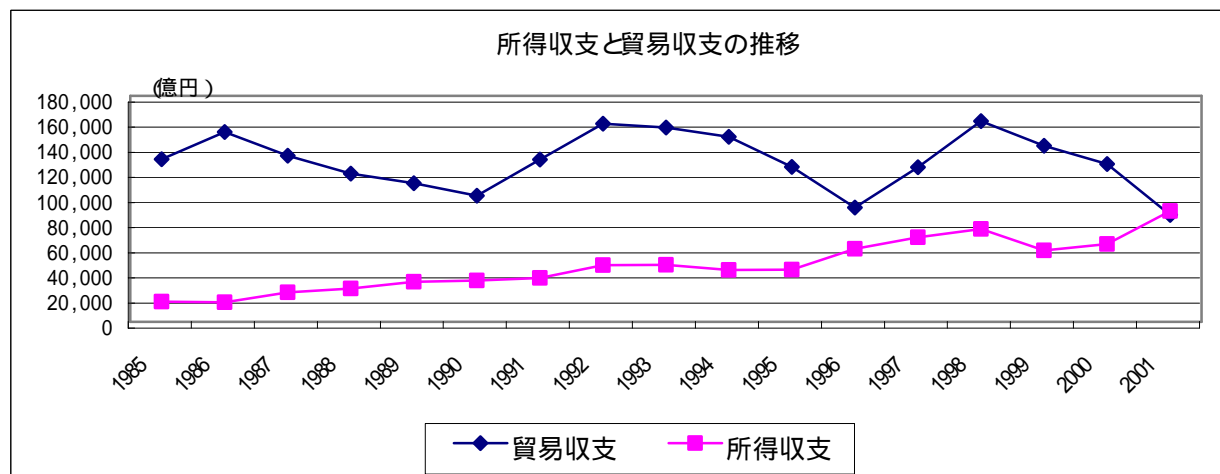


## 2001 年国際収支

2001 年の国際収支によると、配当などの対外資産からの収益である所得収支の黒字が過去最高となり、貿易黒字を初めて上回った。日本経済は、貿易より投資で稼ぐ体質に変わりつつある。



### 1 . 所得収支の増加

2001 年の所得収支は、日本の金融機関が超低金利の国内投資を避け、米国債など海外資産を積極的に購入していることや、企業が労働コストの安い海外へ生産拠点を移し、そこでの生産が増加してきたことなどに由来し、前年比 42% 増の 8 兆 8,258 億円と 2 年連続で拡大した。日本の所得収支は、統計を取り始めた 1985 年以降黒字が続いているが、2001 年は過去最高となった。

(参考) 所得収支とは

海外投資で積み上がった資産が生み出す収益(受け取り)から、海外勢が保有する日本国内の資産からあがる収益(支払い)を差し引いたもの。日本の受け取りは外国債券から得る利子収入と海外子会社から得る配当金が主なものとなる。

### 2 . 貿易黒字の減少

2001 年の貿易黒字は、世界的な景気減速を反映して輸出が減少したことに加え、安い中国製品などを中心に輸入は増加したことから、前年比 32.8% 減の 8 兆 5,210 億円と 3 年連続で黒字幅が縮小した。現行の統計では過去最低の水準となった。

### 3 . 今後の見通し

財務省は、「所得収支は今後も安定的に推移するが、経常収支は景気の循環に左右される貿易黒字の動向しだい」と見ている。

所得収支はアジア等の生産工場への先行投資が実る時期に入っており、拡大傾向が続くと考えられ、日本経済は、モノづくりによる輸出大国から、海外投資から生じる利益に依存する投資大国に姿を変えつつある。